

# C's MAIL

VOL. 76

株主通信《シーズ・メール》2014  
第108期 事業のご報告  
平成25年4月1日～平成26年3月31日

 **コスモ石油株式会社**



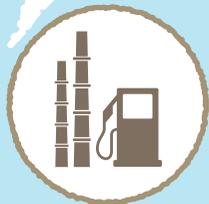
# 一目でわかる コスモ石油グループの ビジネスアウトライン

## 石油精製・販売

当社は、千葉・四日市・堺の3つの製油所において石油製品の生産を行っており、産油国から輸入した原油は、各製油所でガソリン、灯油、軽油、重油などに生まれ変わります。販売については、全国のコスモ石油サービスステーションにおいて販売する他に、工場などの需要家にも販売しています。

\*坂出製油所は、2014年4月から坂出物流基地に移行しました。

最新の情報については12-14、17ページに記載しています。



## 石油開発

40年以上前から中東のアラブ首長国連邦の阿布ダビ首長国、カタール国において、原油の自主開発・生産に取り組んでいます。スピーディな経営判断を実施するため、2014年2月に石油開発事業を分社化し、コスモエネルギー開発株式会社に事業承継しました。また、IPICグループであるスペインのセブサ社\*と戦略的包括提携合意契約を締結し、事業案件の発掘を進めています。

\*カンパニア・エスパニョーラ・デ・ペトロ・レオス エス・エー・ユー

最新の情報については8-11ページに記載しています。

# Business Outline

エネルギーの安定供給を通じ、  
社会の多様なニーズに対応することを  
社会的使命と捉え、  
長期的に  
「グローバルな垂直型一貫  
総合エネルギー企業」を  
めざします。



## 石油化学

当社グループは、新興国で需要が伸びているポリエステル繊維やペットボトルの原料であるパラキシレン、ミックスキシレンの製造を強化しています。韓国のヒュンダイオイルバンク株式会社(HDO)との合併会社であるヒュンダイコスモペトロケミカル株式会社(HCP)では、世界最大級のパラキシレン製造装置が完成し、2013年から生産を開始しています。



## 再生可能エネルギー事業

2010年に国内シェア第4位のエコ・パワー株式会社をグループ化し、風力発電事業に本格参入しました。風力発電は、将来の電力供給手段の主力のひとつとして期待が高まっています。また、メガソーラー事業への参入に向けて、合併会社を設立し、商業運転開始に向けた取り組みを進めています。今後も安全で環境にやさしい再生可能エネルギー事業を拡大していきます。



## CSR・社会貢献活動

地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざすことを経営理念に定め、当社グループ社員やお客様とともに、国内外で社会貢献活動を展開しています。

最新の情報については17ページに記載しています。

## 第108期 (2014年3月期) 連結累計期間 財務・業績のご報告と 来期の見通しについて

代表取締役会長 (左)  
木村 彌一

代表取締役社長 (右)  
森川 桂造



株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第108期、連結累計期間 (2013年4月1日～2014年3月31日) (以下:当期)の財務・業績の概要について、ご報告いたします。

### 当期の国内経済環境について

当期における国内経済は、デフレからの脱却と持続的な経済成長をめざす政府の機動的な財政政策や日本銀行による大胆な金融緩和などにより、過度な円高が解消され、景気回復の動きが見られました。

当社の事業環境については、原油価格は期初に1バレル107ドル台であったドバイ原油が、シェールオイル革命による北米での増産期待や、季節的な需要減少などで一時1バレル96ドル台まで下落しましたが、中東情勢の混迷により上昇に転じ、期末は104ドル台で終わりました。為替相場は、期初の1ドル94円台から、日本銀行による大

規模な金融緩和の実施、米国における金融政策の転換などにより、過度な円高が解消され、期末は1ドル102円台で終わりました。

### コスモ石油グループの営業概況

営業概況を事業セグメント別に解説します。石油事業における販売数量は、ガソリン、灯油は総合エネルギー株式会社のグループ化により増加となりましたが、火力発電所向けC重油は石炭火力発電所の稼働増により大幅に減少しました。その結果、コスモ石油個別の国内燃料油総

#### ● 連結業績サマリー

(単位: 億円)

	2013年度	前期比
連結売上高	35,378	3,711
連結営業利益	397	-127
連結経常利益	418	-66
在庫評価の影響	161	8
連結経常利益 (在庫評価除き)	257	-74
連結当期純利益	43	902

販売数量は、前期比98.5%となりました。中間留分の輸出総量は、千葉製油所の再稼働により114万キロリットルの軽油を輸出したことで大幅に増加しました。

上記に加え、円安による販売価格の上昇により売上高は増加しましたが、製品市況が低調となったため、石油事業の経常損失は253億円、前期比16億円の減益となりました。

石油化学事業は、製品販売数量の増加及び市況の改善により、経常利益は37億円、前期比4億円の増益。石油開発事業は、販売数量の減少等により経常利益は581億円、前期比26億円の減益となりました。

当期の連結経営成績については、売上高は3兆5,378億円 (前期比3,711億円増収)、営業利益は397億円 (同127億円減益)、経常利益は418億円 (同66億円減益)、当期純利益は43億円 (同902億円増益)となりました。

当期末における連結の財政状態につきましては、総資産は1兆6,968億円となり、前期末比467億円減少しています。これは主に坂出製油所の物流基地化に伴い、たな卸資産が減少したこと等によるものです。純資産は前期末比42億円増加の2,611億円となり、自己資本比率は13.7%となりました。

### 2015年3月期の見通し

当社グループは、「第5次連結中期経営計画」の2年目を迎え、石油精製販売事業における収益力の回復、石油化学事業及び石油開発事業等については、前中期経営計画で実施した戦略投資

の確実な回収を遂行していきます。

来期の予想については、原油価格を1バレル104ドル、為替は1ドル102円を前提として、売上高3兆4,650億円 (前期比728億円減益)、営業利益620億円 (同223億円増益)、経常利益570億円 (同152億円増益)、当期純利益140億円 (同97億円増益)となる見通しです。

### 配当について

当社は、株主様への利益還元を行うことを重点課題としており、企業体質強化や将来の事業展開及び業績や資金バランスを勘案の上、安定的な配当を実施することを基本方針としています。この方針に基づき、当期の期末配当金は、1株当たり2円とさせていただきます。また、来期の配当については、業績が順調に回復していることを踏まえ、2円増配し、1株当たり年間4円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

#### ● 2015年3月期の連結業績予想 (2014年5月13日公表)

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	34,650	620	570	140

● 原油価格、為替の前提

原油価格 (ドバイ)=104ドル/バレル 為替=102円/ドル

#### 業績予想の適切な利用に関する説明

業績予想については、2014年5月13日の発表日において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。

要約連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当期 (2013.4.1~2014.3.31)	前期 (2012.4.1~2013.3.31)
売上高	35,378	31,667
売上原価	33,690	29,893
販売費及び一般管理費	1,291	1,250
営業利益	397	524
営業外収益	186	152
営業外費用	165	192
経常利益	418	484
特別利益	121	13
特別損失	45	522
税金等調整前当期純利益	494	-25
法人税等	391	762
少数株主損益調整前当期純利益	103	-787
少数株主利益	60	71
当期純利益	43	-859

※億円未満を四捨五入しています。

包括利益計算書

(単位:億円)

科目	当期 (2013.4.1~2014.3.31)	前期 (2012.4.1~2013.3.31)
少数株主損益調整前当期純利益	103	-787
その他有価証券評価差額金	-11	22
繰延ヘッジ損益	-2	-11
為替換算調整勘定	17	17
持分法適用会社に対する持分相当額	53	34
その他の包括利益合計	58	62
包括利益	161	-725
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	101	-797
少数株主に係る包括利益	60	72

※億円未満を四捨五入しています。

販売価格の上昇等により増収  
石油製品市況の  
悪化等により減益

当期の連結売上高は、3兆5,378億円となり前期比3,711億円の増収、連結経常利益は千葉製油所の再稼働による増益効果があったものの、国内石油製品市況の悪化により、前期比66億円減益の418億円となりました。特別損益及び法人税等を加味した当期純利益は43億円(前期は当期純損失859億円)となり、3期ぶりの黒字転換となりました。

連結売上高・経常利益



売上高販管比率

売上高販管比率 = (販売費及び一般管理費 ÷ 売上高) × 100



要約連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当期末 (2014.3.31)	前期末 (2013.3.31)
資産の部		
流動資産	9,218	9,671
固定資産	7,743	7,758
有形固定資産	5,891	5,827
無形固定資産	500	515
投資その他の資産	1,352	1,416
繰延資産	7	5
資産合計	16,968	17,435
負債の部		
流動負債	7,992	8,166
固定負債	6,365	6,699
負債合計	14,357	14,866
純資産の部		
株主資本	2,115	2,071
その他の包括利益累計額	204	234
少数株主持分	292	265
純資産合計	2,611	2,569
負債純資産合計	16,968	17,435

※億円未満を四捨五入しています。

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当期 (2013.4.1~2014.3.31)	前期 (2012.4.1~2013.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	358	-210
投資活動によるキャッシュ・フロー	-610	-805
財務活動によるキャッシュ・フロー	126	1,047
現金及び現金同等物に係る換算差額	62	40
現金及び現金同等物の増減額	-64	73
現金及び現金同等物の期首残高	1,297	1,224
現金及び現金同等物の期末残高	1,233	1,297

※億円未満を四捨五入しています。

資産の部

総資産は、坂出製油所の物流基地化に伴い、たな卸資産が減少したこと等で前期比467億円減少しました。

負債の部

負債は、前期比509億円減少しました。

純資産の部

純資産は、2,611億円となり、自己資本比率は13.7%となりました。

総資産・自己資本/比率

※自己資本=純資産-少数株主持分



活動別キャッシュ・フロー

■営業活動によるキャッシュ・フロー  
■投資活動によるキャッシュ・フロー  
■財務活動によるキャッシュ・フロー



# 産油国との 信頼関係を基盤に 石油開発事業を 拡大していきます。

社会や産業にとって欠かすことのできないエネルギー源である石油。しかし資源の少ない日本は石油のほぼ全量を輸入に頼っています。コスモ石油グループは、エネルギーの安定供給に向けて、産油国との間に築き上げた信頼関係のもと、積極的な石油開発事業に取り組んでいます。



## 01 石油開発・生産で40年以上の実績 2016年度より、新鉱区ヘイル油田の生産をめざす

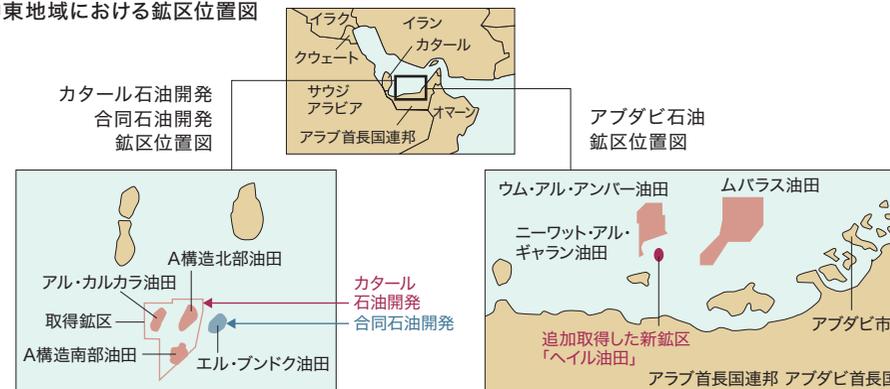
コスモ石油グループは中東産油国との信頼関係を築くための活動に力を注いでおり、アラブ首長国連邦のアブダビ首長国との関係は40年以上にわたります。1967年にアブダビ首長国での利権を獲得し、「アブダビ石油株式会社」を設立、同国内の3油田で生産を行い、日本に向けて出荷

しています。2011年には現在操業中の油田と隣接するヘイル油田の利権を獲得、新鉱区は既存3油田と同程度の生産量が見込まれ、2016年度中の生産開始を予定しています。さらに、1970年には「合同石油開発株式会社」、1997年には「カタール石油開発株式会社」を設立、ともに生産を

行っています。当社グループは、中東地域でオペレーションを行っている日系企業としては最大規模の原油生産量を誇るようになりました。また、中東以外での石油開発・生産事業を視野に入れ、1996年には、オーストラリア北西海域の探鉱権

を取得し、「コスモアシュモア石油株式会社」を設立しました。石油開発・生産事業は、エネルギーの安定供給に向けた重要な取り組みであるとともに、当社グループの収益を支える大きな事業の柱となっています。

### ●中東地域における鉱区位置図



### ●石油開発・生産会社の会社概要

社名	アブダビ石油株式会社	合同石油開発株式会社	カタール石油開発株式会社	コスモアシュモア石油株式会社
設立	1968年1月	1970年11月	1997年9月	1996年9月
出資比率*	63%	45%	75%	53%

\*出資比率は当社グループ

## 02 原油埋蔵量は確認埋蔵量、推定埋蔵量合わせ 2億590万バレル、可採年数は約30年

当社グループの中東における石油開発・生産会社3社（アブダビ石油株式会社、合同石油開発株式会社、カタール石油開発株式会社）の平均

原油生産量は、2013年1月～12月において日量約37,000バレル、当社権益分は日量約19,000バレルとなっています。また、3社合計

の原油埋蔵量の評価は、確認埋蔵量が1億700万バレル、推定埋蔵量が9,890万バレル、確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計は2億590万バレル、可

採年数は約30年となっています。当社グループは今後とも、安定した原油生産を継続していきます。

#### 原油埋蔵量評価の結果(当社権益分)

(2013年12月31日)

	百万バレル
確認埋蔵量 *1	107.0
推定埋蔵量 *2	98.9
確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計	205.9

上記原油埋蔵量には新鉱区であるヘイル油田を含んでいます。

\*1 確認埋蔵量とは、地質学的、工学的データの解析により、ある時点以降に既知の貯留層から現状の経済条件、操業方法と規制の下で商業的に回収されることが合理的確実さをもって予想される石油の量です。

\*2 推定埋蔵量とは、地質学的、工学的データの解析により、おそらく回収できると考えられる未確認埋蔵量です。

## 03 スピーディな経営判断を実施するため コスモエネルギー開発株式会社を設立

2013年4月よりスタートした第5次連結中期経営計画で掲げた「成長の基礎を固め、当社グループの盤石な経営基盤を確立する」という目標の下、施策のひとつとして石油開発事業への積極的な投資を実施しています。2014年2月、収益拡大に向けたスピーディな経営判断を可能にするため、同事業を分社化して事業を承継し、

「コスモエネルギー開発株式会社」を設立しました。石油開発事業は当社の事業ポートフォリオの中でも安定した収益の柱となっています。今後も積極的な投資を実行するとともに、同社の情報開示体制を強化することで、企業価値向上に努めていきます。

## 04 石油開発事業の拡大に向けてIPICグループの セブサ社と戦略的包括提携合意契約を締結

当社とスペインを代表する総合石油会社であるカンパニーア・エスパニョーラ・デ・ペトロレーオス エス・エー・ユー(以下:セブサ社)は、同じ

IPICグループ\*として、2014年1月、相互の事業機会の発掘と事業化に向けた検討を実施するために提携し、なかでも石油・ガス開発事業において



セブサ社との戦略的包括提携合意契約の様子

共同で新鉱区獲得や事業拡大に注力することで合意し、戦略的包括提携合意契約を締結しました。これは、第5次連結中期経営計画の基本方針のひとつ「IPICとのアライアンス強化」の一環であり、今後当社の海外戦略の新たな軸となるものです。当社グループは、日系企業のオペレーターとして中東地域で約半世紀にわたる海上油田の開発経験があります。一方、セブサ社は北アフリカや南米における陸上油田・ガス田のオペレーターとして探鉱・生産を行っており、近年は、ブラジルの深海油田での探鉱を開始するなど活動領域を広げています。今後、両社が共同で新規事業開発を行うことにより、単独では困難な事業機会にも挑むことが可能となります。

両社は、事業セグメントに石油・ガス開発、石油精製販売、石油化学を含んでおり、事業内容がほぼ一致している一方で、活動地域については、ほとんど重複していないため、地理的補完関係が成り立ち、本提携により広範なエリアをカバーすることが可能となります。

本提携の目的を達成するため、両社は下記の2作業部会を発足させ、それぞれのテーマに沿った検討を実施し、事業化をめざしていきます。

石油・ガス開発作業部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石油・ガス開発事業分野での共同事業検討</li> <li>●技術ノウハウの共有</li> </ul>
戦略作業部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石油・ガス開発事業を除く石油関連事業分野での共同事業検討(石油化学、石油精製、マーケティング、その他)</li> </ul>

\*IPIC (International Petroleum Investment Company) : アブダビ首長国政府が100%出資するエネルギー関連投資会社。当社株式の約21%を保有。

#### セブサ社の会社概要

商号	Compañía Española de Petróleos, S.A.U. カンパニーア・エスパニョーラ・デ・ペトロレーオス エス・エー・ユー
設立年月日	1929年9月26日
本店所在地	スペイン マドリッド
代表者	取締役最高経営責任者 ペドロ・ミロ・ロイグ
資本金	266百万ユーロ
事業内容	総合石油事業
株主 (2013年3月末時点)	インターナショナル ペトロリアム インスベストメント カンパニー (IPIC)
従業員数	11,743名(2012年12月末現在)
連結売上高	27,583百万ユーロ(2013年度)

# 「コスモスマートビークル」の 累計契約台数が 11,000台を突破。 お客様にカーライフの 新しい価値を ご提案しています。

2011年4月、本格的に展開をスタートしたカーライフ事業「コスモスマートビークル」の累計契約台数が、2014年3月に11,000台を突破しました。税金から車検、給油、メンテナンスまで、快適なカーライフをお届けする「コスモスマートビークル」について、ご紹介します。

## もっと手軽、気軽、身軽なカーライフを コスモスマートビークル

クルマがある生活はライフスタイルをより行動的、社会的にしてくれます。一方で、クルマには税金、車検、メンテナンスなど多くの維持費がかかることも事実です。コスモスマートビークルは月々の支払いが定額制なので、新車を「手軽に持てる」、税金、車検、メンテナンス費用が全てコミコミだから新車に「気軽に乗れる」、どこのコスモ

石油でもガソリンがおトクに給油できて新車を「身軽に維持できる」、新しいクルマの乗り方です。

コスモステーションに来店されるお客様のニーズは、「ガソリンが欲しい」ではなく「快適なカーライフを送りたい」ことが本質です。コスモスマートビークルは、特に女性やシニアの方々を始め、カーライフにおける様々な手続きを「わずらわしい」と感じられているお客様に大きなご支持をいただいています。



## 今、「軽々カーライフ」始まっています!



## ビジネスモデル特許を取得し 新たなサービスを展開

コスモ石油グループは、コスモ・ザ・カード会員様を始めとするお客様、全国に広がるSSネットワーク、メンテナンス設備や整備士等の技術力など様々な強みを有しています。コスモスマートビークルは、これらの強みを最大限に発揮し、車両の調達から保険、メンテナンス、売却までお客様のカーライフをトータルにサポートする新しいビジネスモデルです。

なかでも、当社独自のサービスである燃料油値引きのビジネスモデルが認められ、「リース契約車両への燃料販売システム」として、2013年10月にビジネスモデル特許を取得しました。今回特許を取得した燃料販売システムは、お客様のリース契約内容に応じて燃料油値引きを提供するシステムで、当社独自のサービスである「燃料油値引き付き自動車リース」の提供を実現しています。

また、お客様の更なるカーライフサポート強化を目的とした『スマートビークルショップ』を新たに展開することとなり、2014年5月に1号店をオープンしました。『スマートビークルショップ』は、①人気車種のカatalogを配備、②試乗ができる、③お客様のクルマの最適な購入時期を

## 新車を比べて選べる スマートビークルショップ

### ① 情報で比べる

店内には国産全メーカーの人気車種のカatalogを用意しています。

### ② 試乗で比べる

人気車種の試乗ができます。

### ③ 相談で比べる

「マイカーコスト診断\*」で最適な購入時期を診断できます。

\*「マイカーコスト診断」とは、今のクルマに係る費用と新しいクルマに乗り換えた場合の費用を比較し、車の購入時期をアドバイスする診断です。当社ホームページからも診断が可能です。

スマートビークル

検索

診断、予算やライフスタイルに合った購入方法をアドバイスすることで「スマートビークル」を特にご支持いただいている女性やシニアのお客様を中心に、より「手軽」、「気軽」、「身軽」な

カーライフを提案していきます。今後、コスモ石油では、『スマートビークルショップ』を全国に展開し、お客様のカーライフを革新してまいります。

コスモスマートビークルの累計契約台数



2011年4月の全国展開以来、コスモスマートビークル累計契約台数は2014年3月に11,000台を突破しました。2014年度は、年間契約台数10,000台、累計契約台数20,000台に向けて取り組んでいきます。

コスモスマートビークルについてのお問い合わせ

☎ 0120-530-372  
コスモ みんなに

スマートビークル

検索

## コスモSS新店舗オープン情報

2013年11月から2014年5月にオープンしたコスモ石油のサービスステーションを紹介します。“ココロも満タンに”の想いを込めた新店舗ですので、お近くにお住まいの方はぜひご来店ください。



### 2014年

- 5月オープン
  - コスモイオンモール天童SS  
山形県天童市
- 4月オープン
  - 緑町SS  
山形県山形市
  - 蔵王インター前SS  
山形県山形市
  - 上山中央SS  
山形県上市
  - 寒河江東SS  
山形県寒河江市
- 3月オープン
  - 加茂SS  
千葉県市原市

### 2013年

- 12月オープン
  - くじらセルフ笠岡北SS  
岡山県笠岡市
  - セルフ&カーケアステーション芝浦  
東京都港区
- 11月オープン
  - セルフ&カーケアステーション光が丘  
東京都練馬区
  - セルフ埼玉大通りSS  
埼玉県さいたま市



## QUESTIONNAIRE INVESTIGATION 読者アンケート

アンケートにご回答いただき、ありがとうございました  
集計結果について、ご報告いたします。

昨年実施しましたシーズ・メール74号のアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。皆様から関心をお寄せいただいている項目について集計結果と関連する情報についてご案内いたします。

### ●読者アンケート「当社に関連する情報の中で興味がある分野」の集計結果（複数回答）

石油開発	43%
再生可能エネルギー	38%
研究開発・新規事業	38%
安全対策	27%
石油精製・製油所	21%
燃料油販売・SS	21%
環境対応	17%
社会貢献活動	16%
財務戦略	14%
石油化学	13%
無回答（なしを含む）	4%
その他	1%

当社に関連する情報の中で興味がある分野としては、「石油開発」が43%と高い関心を示されました。当社グループは、中東地域を中心に40年以上にわたり石油開発・生産に携わっています。石油開発事業の直近の情報については本誌8～11ページをご参照ください。次に関心が高いのが「再生可能エネルギー」「研究開発・新規事業」となっ

ています。また、「燃料油販売・SS」については、新たに取り組んでいる「コスモスマートビークル」の特集、本誌12～14ページをご参照ください。今後とも株主の皆様からの声を経営に反映することで、企業価値向上に努めてまいります。

2014

**5月9日**  
『スマートビークルショップ』  
1号店のオープンについて

**4月7日**  
コスモスマートビークル1万  
台突破記念式典の開催に  
ついて

**3月31日**  
コスモステーションのイメー  
ジキャラクターに加藤夏希  
を継続起用

**3月11日**  
四日市製油所における原油  
処理能力の削減について

**3月6日**  
坂出物流基地移行式開催  
について



**2月28日**  
岡部名誉会長がモハメッド・  
アブダビ皇太子殿下と会談  
しました

**2月19日**  
【2013年度目標台数達成】  
「コスモスマートビークル」  
累計契約台数"10,000台"  
突破のお知らせ

**1月27日**  
社会貢献活動「楽器とあそぼう!  
コスモ・ファミリーコンサート  
～『となりのトトロ』の「さんぽ」  
で東京フィルと共演～」  
三重県での開催のご報告



**1月24日**  
SSバックアッププログラム  
「コスモビークルビジョン」コ  
コロも満タンに"宣言2014."  
について

**1月21日**  
石油関連事業に関する戦略  
的包括提携合意契約の締結  
について

**1月21日**  
石油開発事業における原油  
埋蔵量評価結果の公表に  
ついて

**12月24日**  
会社分割（簡易新設分割）  
に関するお知らせ

**12月24日**  
LPガス元売事業の統合に  
関する検討開始について

**12月16日**  
『リース契約車両への燃料  
販売システム』に関するビジ  
ネスモデル特許を取得いた  
しました

**12月16日**  
日本初!イオンの電子マネー  
「WAON」を利用したセルフ  
サービスステーションが  
誕生

**1月27日**  
**1** 楽器とあそぼう!  
コスモ・ファミリーコンサートを  
三重県で開催しました

コスモ石油は、地域貢献と健全な次世代育成活動の一環として、当社製油所周辺地域にお住まいの方をご招待するファミリーコンサートを開催しています。2014年1月25日には、当社四日市製油所の周辺地域にお住まいの皆様をお招きし、「楽器とあそぼう!コスモ・ファミリーコンサート～『となりのトトロ』の「さんぽ」で東京フィルと共演～」を開催。コンサートの目玉として、オーケストラのメンバーと共演できるコーナーがあり、多くの親子が楽器を持参して体験しました。コンサートの運営には、当社グループの社員ボランティア15名も参加しました。

[http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p\\_140127/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_140127/index.html)



オーケストラとの共演の様子



子どもたちが楽器演奏を体験しました

**3月6日**  
**2** 坂出製油所が物流基地として  
再スタート  
物流基地移行式を開催しました

コスモ石油は、供給体制の再構築に向けて、坂出製油所の精製装置を全て停止し、物流基地化に向けた準備を進めてきました。2014年3月5日に物流基地への移行準備が完了したことを受け、坂出物流基地移行式を開催しました。坂出物流基地は、4月1日より中国四国地方を中心とした西日本地域への物流拠点として、石油製品の安定供給を担っていきます。従来の千葉製油所、四日市製油所、堺製油所、坂出製油所の4製油所体制から3製油所体制へ移行したことにより、当社は、製油所の高い装置稼働率を保つことが可能となり、競争力の向上を今後とも推進してまいります。

[http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p\\_140306/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_140306/index.html)

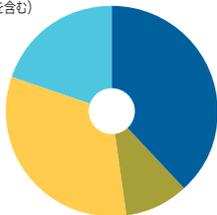


坂出製油所の物流基地移行式の様子



発行済株式の総数 847,705,087株

金融機関・証券会社(信託口を含む)  
323,983(38.2%)  
国内法人(自己株式を含む)  
81,702(9.6%)  
外国人  
275,072(32.4%)  
個人・その他  
166,945(19.7%)



(単位:千株、千株未満切捨)

発行済株式数の所有者別推移 (単位:%)



社債の状況

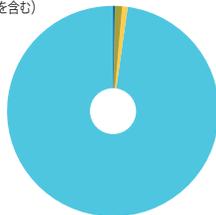
●無担保社債 (単位:億円)

	発行日	前期末残高	当期末残高	償還期限
第20回	2010.1/29	142	125	2017.1/31
第21回	2010.9/21	220	220	2015.9/18
第22回	2010.12/9	100	100	2014.12/9
第23回	2010.12/9	100	100	2016.12/9
第24回	2012.8/28	200	200	2020.8/28
第25回	2013.9/30	—	100	2021.9/30
第26回	2014.2/25	—	77	2022.2/25

※億円未満を四捨五入

株主数 36,687名

金融機関・証券会社(信託口を含む)  
113名(0.3%)  
国内法人(自己株式を含む)  
497名(1.3%)  
外国人  
261名(0.7%)  
個人・その他  
35,816名(97.6%)



株主数比率の推移 (単位:%)



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
インフィニティ アライアンス リミテッド	176,000	20.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	53,467	6.30
株式会社みずほ銀行	31,531	3.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	29,040	3.42
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,750	2.33
三井住友海上火災保険株式会社	18,878	2.22
関西電力株式会社	18,600	2.19
東京海上日動火災保険株式会社	17,335	2.04
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	15,803	1.86
株式会社損害保険ジャパン	15,792	1.86

※小数点第3位を切捨

注)持株比率は自己株式を控除して計算しています。



事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

期末配当金支払株主確定日 3月31日

1単元の株式の数 1,000株

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関  
三井住友信託銀行株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社証券代行部

電話照会先 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)

公告方法 電子公告の方法により行います。  
ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。  
公告掲載URL  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html>

上場取引所 東証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

コスモ石油株主通信『シーズ・メール』76号

発行/コスモ石油株式会社  
経営企画ユニット  
コーポレートコミュニケーション部 IR室  
〒105-8528  
東京都港区芝浦一丁目1番1号  
TEL.(03)3798-3180  
FAX.(03)3798-3841  
ホームページ  
<http://www.cosmo-oil.co.jp/>

IRモバイルサイト



※モバイルサイトへは、このバーコードからアクセスできます。

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様へ、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。

表紙イラスト 古田忠男